

## 自動車の運転

小嶋祥三

勤務していた霊長類研究所のある犬山市では、自動車なしには生活が難しかった。それゆえ、1972年から2003年までの約30年は日常的に自動車に乗っていた。東京に戻ってからは、自動車は必要がある時しか乗らなかったのも、年に1度乗るか乗らないかの程度だった。去年の免許更新では70歳を超えたので講習を受ける必要があった。実技のチェックもあり、10年ぶりにハンドルを握った。教習所内だが、横に検査者がいるので、少し緊張した。最後に長時間運転したのは、旅行で長野へ行きレンタカーを借りた時で、2005年だったように思う。最近九州へ行き、レンタカーで佐賀、長崎をまわった。本格的な自動車の運転は10年以上間があいたことになる。

レンタカーはホンダのフィットだったようだ。鹿児島ナンバーがついていた。電子ロックだったり、ブレーキを踏まないとエンジンがかからなかったり、エンジン始動は押しボタンだったり、私が乗っていた頃とは大分違っていた。レンタカーにはカーナビがついており、500m先から声で案内してくれるので、運転だけに集中できる。見知らぬ土地の自動車旅行の不安と苦労の大半がなくなり、とても便利な装置だ。くねくねとカーブする道が無難に運転したので、運転技術的には昔と大差ないように思った。ただ、自分の運転を観察していて、まだ感覚が戻っていないなと思うことがあった。それは眼を運転方向から外して脇をみた時のハンドルさばきについてである。昔は脇をみても、意識せずにハンドルは状況に合わせて操作していたようだ。しかし、今回は脇をみるとハンドルがおろそかになり、路肩に寄りすぎるのが2度あった。そういえば、免許をとりたての頃、車を石垣にぶつけたことがあったが、あの時も別の方向をみていたことを思い出した。

マア、今年73歳になるし、後期高齢者の仲間入りをするのも間近である。認知症のテストも受ける必要がある。これからも自動車の運転はしたいので、時折レンタカーを借りて、腕が落ちないように、運転感覚が失われないようにしようと思っている。高速道の逆走などもってのほかである。



## 長崎空港にて

レンタカーの人が空港まで送ってくれた。話し方が、霊長研の技官だった木下實さんにそっくりだったので、チョット感動した。木下さんも確かこちらの出身だったので、聴覚と音声を研究したことがあるので、こんなことが気になるのです。